2021年9月8日

星彩

ウトナイ中 1－3

世界に誇るウトナイ湖の自然

野鳥のけがを防ぎたい

私たちは何ができるのか

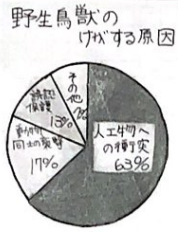
ラムサール条約に登録されているウトナイ湖は、多くの野鳥と豊かな自然にめぐまれている。しかし、人間の活動により、多くの野鳥がけがをしている。

ウトナイ湖は周囲が約九km、平均水深が約六十cmと浅く、もともと周囲は海だった。ために砂丘なども見られる。現在まで二百七十種類を超える鳥類が確認され「野鳥の楽園」とも呼ばれている。渡り鳥が羽を休める中継スポットとしても有名で、中でも春と秋に「マガンのねぐら立ち」と言って、マガンが空一面を飛うくらいに一斉に飛び立つ姿は圧巻だ。また、夏には北海道で繁殖する野鳥、冬にはあこがれのオオワシが空を舞うなど、一年を通して様々な魅力がある。

しかし、そんな野鳥が私たちの行動により、けがをしていることを知り、野鳥の保護治療をしているウトナイ湖野生鳥獣保護センターに行き、その実態を詳しく調べてみることにした。

野鳥の被害

野鳥がけがをして保護される原因は、主に二つに分けられる。一つ目は「人為的要因」で、二つ目は「自然要因」だ。具体的にはどのような場面でけがをすることが多いのか、次のグラフを見てほしい。



一番多いのは、人工物への衝突だ。金網フェンスに鳥が衝突してけがをしたり、建物や自動車に衝突して…がもしくは死亡することが多い。自動車への衝突は、注意すれば防ぐことができる。スピードの出しすぎには注意してほしい。

二番目に多いのは、動物による襲撃である。野生動物たちにとっては仕方がないことだが、近年ペットとして飼っていた外来種が捨てられ繁殖し、在来種を攻撃することも増えてきている。ペットを飼う側のモラルが問われる問題である。

三番目に多いのは、誤認保護だ。誤認保護とは巣立ちたばかりの飛べない鳥を、けがをしていると間違え、保護してしまうこと。飛べないひな鳥は、親鳥がそばにいることが大切である。

人を傷つける前に

SNSは欠かすことができないほど、日常生活に浸透している。とても便利な手段である一方、使い方によっては怖い思いをすることもある。私たちはどのようにSNSと関わっていけばよいのだろうか。

最近はSNSを使ったトラブルがとても増えている。中でも一番増えているのが「誹謗中傷」だ。度重なる誹謗中傷に傷ついて、自ら命を絶ってしまった芸能人のニュースを見た。匿名をいいことに心無い言葉で相手を攻撃する。毎日のように誰かわからない相手が利用できるからこそ、そこには責任があると思う。

言葉の重みを考えたときに、私は小学校の時被害者にな…たことを思い出した。手から誹謗中傷されたら、誰だって辛くなると思う。匿名は個人のプライバシーを守るものであって、人を傷つけた自覚もないのだと思う。

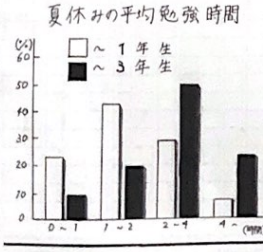
一人一人が違う性格なので、様々な考え方があるのは当たり前だ。しかし、その違いをすぐに否定するのではなく相手の意見として捉えることができれば互いにぶつかることも少なくなると思う。

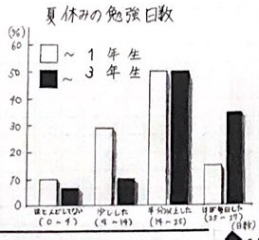
私たちは、顔が見えないからこそ相手の気持ちを考えて、SNSを使うべきではないだろうか。

宿題がないウトナイ中 家庭学習の秘訣

ウトナイ中学校には宿題がない。夏休みも同じく、宿題がでない。宿題がないことは私たちにどのような影響を及ぼすのだろうか。宿題がない夏休みを過ごしたウトナイ中学校の生徒は、しっかりと家庭学習を行ったのか、一年生と三年生を対象にアンケート調査を行った。

調べた内容は、①夏休みの全二十七日間にどのくらいの日数、家庭学習を行ったか。②一日平均どのくらいの時間家庭学習を行ったか。この二点について調査、比較した結果、下のグラフのような結果となった。





家庭学習を行った日数は、一年生と三年生ともに、半分以上は勉強した(十四日〜二十五日)が最も多かった。また、大きな差が見たのは「少し勉強した」と、ほとんど勉強していない」であり、一年生は三年生の二倍以上多かった。

なぜこんなに大きな差があるのか。やはり何を目標に家庭学習を行っているのかに差があると思う。一年生の中でも一日四時間以上の家庭学習を行ったという一年三組の原田君は「一学期より定期テストの順位を上げたいと思い、夏休みから復習に力を入れ、計画的に行うと、四時間以上でも集中して取り組むことができる。」と話していた。

一日平均どのくらいの時間家庭学習を行ったかでは、一年生において一〜二時間勉強したが四十四%と最も多かった。また、三年生では二〜四時間勉強したが四十八%と最も多く、次いで四時間以上勉強したが三十四%と高い割合になった。

二つの調査をしてわかったことは、一年生においても家庭学習の習慣が身についていない大きな差があるということだ。三年生は八十二%の人が一日二時間以上勉強したのに対して、一年生では、三十三%と半分以下だった。

この調査を通して、宿題があるから家庭学習を行うのではなく、目標があるからこそ家庭学習を頑張るのだと改めて思った。私たち一年生も早くから受験を意識したり、身近なテストに目標を設定したりして、家庭学習に取り組むことが大切だ。

私たちにできること

私たちは、このウトナイ湖の野鳥を、豊かな自然を守っていきたい。そこで、私たちにできる四つのことを実践していきたい。

- ゴミを捨てず持ち帰る。
- 野鳥について正しい知識を持つ。
- ペットを飼う場合は、最後まで責任を持つ。
- 命の大切さを意識する。

多くの人達にウトナイ湖の野鳥を見に来ていただき、命の大切さを知ってもらいたいと思う。

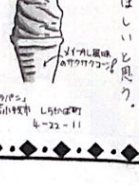
幸せの生ソフト

北海道の人イーツといえば何を思い浮かべるだろうか。生乳の生産量が日本一の北海道。そこで苫小牧市にある生乳をふんだんに使用したソフトクリーム専門店を紹介したい。

私がおすすめしたいソフトクリームは、プチラパン「幸せの生ソフト」。プチラパンは二〇一九年北海道ソフトクリームグランプリにおいて準グランプリを受賞したソフトクリームの専門店である。

幸せの生ソフトを食べた人の感想には「かなり濃厚」「こくがすごい」とあり、どうしても食べたくなった私は、実際に行ってみることにした。夏休みの暑い日にプチラパンに行くと、多くのお客さんでにぎわっていた。幸せの生ソフトを注文し、一口食べると、口全体に生クリームが広がり、その濃厚さに驚いた。また、メイプル味のコーンも甘すぎず、私が今までに食べたソフトクリームの中で一番美味しかった。

なお、プチラパンの斜め向かいにはニ号店にあたるチョコソフトの専門店もある。ぜひ一度食べてみてほしいと思う。



編集後記

今年度、私たちは中学生になり、初めて壁新聞の制作を行った。始めは何を書けばよいのかも分からず苦労したが、みんなで協力して作成することで、良い作品ができたと思う。

この経験を通して学んだことは、今後の学校生活に活かしていけると思う。また、来年も壁新聞の制作に…レンジしたい。

【作成メンバー】

オリジナル S 106